

名誉会員

伊藤富雄先生のご逝去を悼む

本学会名誉会員 大阪大学および大阪工業大学名誉教授 伊藤富雄先生におかれましては、平成15年11月25日虚血性心疾患のためご逝去されました。享年83歳でした。

伊藤富雄先生は、大正9年6月27日神奈川県でお生れになり、第八高等学校理科甲類を経て、昭和16年4月京都帝国大学工学部土木工学科に進学され、同18年9月に同科をご卒業後、直ちに同学大学院特別研究生となられ、同22年4月同研究生を退学し、大阪帝国大学工学部講師となられ、同23年12月大阪大学助教授を経て、同37年9月大阪大学教授に昇任されました。教授在任中、昭和44年9月大阪大学評議員、昭和45年8月大阪大学工学部長事務取扱、同46年10月から2年間大阪大学工学部長・評議員を務められ、いわゆる大学紛争の起った困難な時期に、大学運営の枢機に参画されました。また、昭和59年4月大阪大学教授を停年退官され、大阪大学より名誉教授の称号を授与されました。その後、昭和59年4月大阪工業大学教授に就任され、同62年11月から6年間は大阪工業大学学長・学校法人大阪工大摂南大学理事、平成5年11月から2年間は同顧問として、私学の向上と発展のため尽力されるとともに、名誉教授の称号を授与されました。平成9年4月からは、勲日本地下水理化学研究所理事長としてご活躍されておられました。

この間、先生は、昭和53年から3期（第11～13期）10年半にわたる日本学術会議会員として、同会議の改革に当たられ、地盤工学会と同会議との関係の緊密化ならびに土木工学専門の会員定数の増加に努められました。また、昭和60年からの第13期には、第5部長として第5部（工学）を統括するとともに、同会議の会長を補佐してその運営に参画されました。さらに、文部省学術審議会の専門委員、日本学術振興会の委員としても、工学・技術の発展に貢献されておられます。

伊藤先生はトンネル工学から土質力学、基礎工学にわたる幅広い研究実績を残されております。トンネル工学における成果「トンネルの構造設計に関する力学的研究」により、昭和33年に京都大学より工学博士の学位が授与されました。ここでは、トンネル周辺地盤に現れる塑性域を考慮すべきことを指摘されるとともに、これを取入れて解析的解を求められた先駆的な内容が含まれています。さらに、粘弾塑性理論に基づくトンネルおよび基礎工の構造解析に関して、幾多の解析手法を開発して工学上の新しい知見を得るとともに、地すべり防止工、シールド工法とそれによる地盤変状など実地に適用して、地下空間開発および防災技術の革新と発展に多大の貢献をされました。これらの学識に基づいて、公社、公団、地方公共団体等の委員会に委員または委員長として参画され、大阪の港大橋の超大型ケーソンなど、多数の著名な大プロジェクトにおいて指導的役割を果たされるとともに、天六ガス爆発事故や大阪駅前ビル出水陥没事故の際には、その原因究明に多大の貢献をされました。

地盤工学会においては、昭和33年関西支部創設時に、設立準備会委員として支部発足に努力され、以後、幹事長、副支部長、支部長、顧問を歴任されておられます。また、本部においては、理事、マサ土研究委員会および表彰委員会委員、参与などとして貢献され、昭和44年に功労章を授与され、平成3年に名誉会員に推挙されました。一方、土木学会においては、副会長、関西支部長を歴任され、平成3年に名誉会員に推挙され、平成5年に功績賞を授与されました。以上のようなご功績、ご業績により、平成6年11月勲二等旭日重光章を受勲されました。

先生におかれましては、数カ月前の足の骨折を乗り越えられ、リハビリも順調で、最近ではお元気に種々の会合にも顔を出され、大好きな自動車の運転も再開されておられました矢先のことで、誠に無念であったと存じます。謹んで心より先生のご冥福をお祈り申し上げます。

（松井 保 大阪大学大学院工学研究科教授）

社団法人 地盤工学会

